

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム のぞみ
日付	平成19年3月31日
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
評価調査員	老人保健施設介護実務経験6年、居宅 介護支援事業所介護支援専門員経験6年
評価調査員	在宅介護経験9年
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など) 今日の昼食は“稲荷ずし”。利用者はお稲荷さん作りに参加する。「私は始めて作るんですよ。今までは食べたかったら、買って来て食べていたんですよ。ここでは教えてもらえるから出来そう」と言いながら、お稲荷さんが出来ていく。 その隣のテーブルでは我関せず、紙で作品作りに細かい作業に熱中している人もいる。「丁寧にされますね、疲れませんか」の声かけに「私の手を見て！こんなにゆがんでいるので、こんなことしか出来ませんのよ」と指が少し曲がっているのを見せて笑顔を見せる。また、もくもくと自分専用のカレンダーを作る人もいる。「こんなこと出来ません」と言いながら色塗りに励む人もいる。「これでいいかな？」と問いながらカレンダーが完成した。 利用者の一人に挨拶すると、利用者は手で合図をしたかと思ったら、恥ずかしそうに自分の部屋に帰ってしまった。どうやら初めて合う人に恥ずかしかったらしい。 このようなことをしながら、リビングルームでは食事の準備が整っていく。皆食事の準備にテーブルを片付け、利用者も集まってくる。利用者が全部集まってくると肩が触れ合うくらいキッチンとリビングルームは狭いが、何か暖かい感じが漂う。何か大家族のいる家庭のようだ。 食事が始まると「美味しいね。ありがたいね」と連発しながら食べている人もいる。「お稲荷さん、少し小さくしましょうか。うどもこの位の大きさが良いでしょうかね」と利用者に関心しながら、それぞれの人に見合ったように食べ易くしながら、食事は楽しい雰囲気の中で進んでいった。 『生活にメリハリをいけ、柔らかな雰囲気を維持』というのが、このホームのモットーだと、新しくなった管理者は言う。設立して6年目のグループホームの雰囲気が少し変化して狭いながらも明るいホームとなった。 特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした 家族に利用者の近況やホームの生活の様子を知らせると同時に、利お湯者の人がこんなに生活出来るようになった事等、職員のケアの効果も積極的に家族に知らせてあげ、ホームの運営上、こんなことも智恵を貸して下さいとか、こんな事を助けて欲しい等お願いして、新しい家族関係の構築をしていって如何でしょうか。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か このホームの売りは「生活のメリハリと柔らかな雰囲気を維持」であり、管理者を始め職員全員で出来る事への挑戦は自然体で肩の力が入っておらず、生活の中に溶け込んでいるのがよく分かる。利用者が自分で出来る事に職員が笑顔で声かけて、その人の出来ない部分だけを支えている。今日も出来たときっと感じてもらえる。明日もきっと出来るだろうと心の中が豊かになっていきそうである。この自然な雰囲気が「柔らかい雰囲気」を作っている管理者の笑顔から生まれているのではなからうかと思う。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か ホームの生活に馴染みが積み重なっていき、触れ合いが多くなり、利用者と職員が作り上げていく生活リズムが出来ている。利用者には無理のないゆとりある時間があり、一人ひとりのペースがあって、心地良さを感じる。これらの生活が、落ち着いた利用者の心を豊かにしているのではないかと思う。 これがというはっきりした現象を掴む事は出来ないが、ここに住んでいる職員と利用者の人間の心がつくる空間があるのだと感じた。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 加齢や重度化してくると出来なくなることや、参加に意欲が少なくなってきたら、その中で少しでも出来ることを探し、出来ることを継続して参加してもらえるよう声かけをしている。個人としては「食事の手伝い」「クラフト作品作り」「自分用カレンダー作り」等が自然に通常に日課として進められている。今後の課題として、利用者が楽しみながら、自分の出来たという実感を持ってもらうような自己実現出来るような色々なきっかけを作ってあげられるよう支援してもらって欲しい。 利用者は自らは何も発想できないし、意欲もないので、少しずつ無理のないように会話を続けていける話のきっかけを投げかけてあげ、少し長い時間コミュニケーションできたという実感も持ってもらえるような支援もして欲しい。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 開所して6年も日が経過し、多くの面で工夫、苦労があったと思う。利用者のいろんな面で少しずつ変化が見られる中、柔らかな雰囲気の中で穏やかな時間が流れている。管理者は「お陰さまでヒヤリハット等ないのです」。その笑顔の中に生活の基本と、スタイルの調和を感じた。今後の方向として利用者や家族が「よかったね」と言ってもらえるよう家族とのより密接な関係作りをしてもらい、この狭いリビングルームの中でも家族と共に楽しく過ごせる雰囲気が出来ればと、その情景を想像しながら工夫をしてもらいたいと思う。 運営推進会議は根気強く回を重ねてもらい、地域との新しいつながりを見出すきっかけ作りをして欲しい。		